

ベトナムにおける荏原製作所の 環境事業に対する取組み

(株) 荏原製作所 環境事業カンパニー Kenji Shima
海外事業統括部 営業第二室 副参事 島 健 治

1. はじめに

ベトナムでは急激な経済発展に伴い、上下水の需要増加、河川水質汚濁の進行等も急速に進んでおり、水処理プラントの必要性が高まっています。弊社はベトナムでの現地法人、事務所の設立を通して現地に密着した活動をしております。その結果、幾つかの水処理プロジェクトを受注し、ベトナムの水環境改善に貢献していると自負しております。ここに弊社の取組み、成果を御報告させていただきます。

2. 現地での活動

ハノイにエバラベトナムコーポレーション(EVC)という現地法人を、ホーチミンに現地事務所を設立しております。EVCでは弊社が受注したODA等の大型プロジェクトの詳細設計、現地工事管理等を請負うと共に、現地企業やベトナムに進出した本邦企業等から水処理設備工事を直接受注しています。日本人技術者が駐在し、現地技術者への指導・育成を行っております。

●エバラベトナムコーポレーション

設立： 2001年8月

業務内容： 水環境事業としてのODA(有償・無償)案件のON-SHORE工事の遂行、工業団地・本邦企業進出工場の用排水プラントの設計、施工。
水環境改善の一環である治水、灌漑、給排水等ポンプ施設の設計、施工。

3. 近年のプロジェクト実績

弊社では円借款事業として、以下のようなプロジェクトを実施しております。

<完工したもの>

●北タンロン地区インフラ整備プロジェクト(CP-1プロジェクト)

ハノイ市近郊の北タンロン工業団地及び近隣住民への上水供給を目的として建設されたもので、経済インフラ整備の一環として位置づけられます。2002年3月に邦人ゼネコンとのコンソーシアムで受注し、2004年9月に完成しました。処理能力は50,000m³/日であり、ろ過槽部分には日本でも数多く採用されている自己洗浄型のろ過装置である「グリーンリーフフィルタ(当社商品名)」が使われています。

●北タンロン地区インフラ整備プロジェクト(CP-3プロジェクト)

前述の浄水場と同じく、北タンロン工業団地の

廃水及び近隣住民の下水の処理を目的としています。2002年9月に邦人ゼネコンとのコンソーシアムで受注し、2005年9月に完成しましたが、別途プロジェクトである下水管網、処理水放流ラインなどが工事中であり、本格稼働は来年以降を見込んでいます。処理能力は42,000m³/日であり、日本でも一般的な処理である活性汚泥法が採用されています。

●ハノイ下水処理パイロットプラント(CP-12プロジェクト)

首都であるハノイ市の都市環境改善を目的としたプロジェクトの一環として実施されたものです。市内に小規模な2箇所の処理場(処理能力：2,300m³/日、3,000m³/日)を建設するものであり、半地下式にして景観に配慮する等の工夫がされています。処理水の放流先は湖沼で、窒素・リンなどの除去が必要となることから、流動担体を投入した活性汚泥法である「バイオエルグ法(当社商品名)」を採用しています。2002年5月に現地ゼネコンとのコンソーシアムで受注し、2005年12月に完成しました。本設備がよき前例となり、ベトナムでの水環境改善に対する意識が一層高まることを期待しております。

<現在工事中のもの>

●ホーチミン下水処理場

ベトナム最大の都市であるホーチミン市の都市下水処理を目的として建設されるものです。2004年11月に邦人ゼネコンとのコンソーシアムで受注し、来年の完成を目指して作業を進めております。処理能力は141,000m³/日と、ベトナムでは最大規模の処理場になる予定です。

4. 将来の展望

ベトナムは円借款がここ数年、安定・継続して供与されており、その傾向はしばらく続くものとみています。その中で上下水道等、環境プロジェクトも毎年継続して供与されていくことを期待しています。弊社としても今後もそういった案件に関与し、ベトナムの環境改善に貢献できるように努力していく所存です。

また、日系企業の工業団地への進出がますます盛んになっていますので、そういった工場への用排水設備も提供できるよう、現地法人含めて荏原グループ全体として価格競争力、技術力、プロジェクト遂行能力を高めて生きたいと考えております。